

# 金沢中心商店街武蔵活性化協議会

## 「新幹線効果は大・・・しかし」 現地視察報告

JR金沢駅から800mに位置する武蔵が辻交差点を中心に「武蔵活性化協議会」がつくられ商工振興のために活動しています。武蔵商店街・近江町商店街・尾張町商店街・横安江町商店街・彦山商店街の振興組合と「めいてつエムザ」「ANAホリデイイン金沢スカイ」等5団体4法人で構成する協議会では“春・夏・秋の祭り”“クローバー集め（シール集めで回遊性を）”“まちゼミ”“ドックラン”などいろいろな事業を展開して観光客と地元の消費者に対応しているとのこと。

北陸新幹線が通り観光客が増え、通行人が日曜日これまでの7000人が15000人に、市場内のお客さんは15000人から25000人に。

その結果ホテルが足りない、物価が上がる、人が歩けないといったマイナス面も出始め、「めいてつエムザ」に至っては売り上げが減少。観光客は駅前の商店で購買と飲食を集中的にする結果が出てきているとのことです。

今後、新幹線効果とマイナス面をカバーすべく地元消費者と観光客へどう対応するかを検討していくとのこと。

新幹線効果はあるが、これによって商店街の持っているこれまでの「シャッター通り」状況、「後継者がいない（親の仕事をやっていくのが難しい、成り立たない）」「郊外に大きなショッピングセンターができ売り上げが郊外に移っている」といった問題点が解決するわけではないと協議会の方が語っていました。

このような状況の中、“観光客へのおもてなしシール”（①写真撮ります②荷物預かります③英語話せます④傘貸します⑤お勧めスポットをご案内します⑥道案内します）を店舗に張りサービスを提供して好評とのこと。

金沢市内の回遊性をつくっていく為のマグネットを何にするかの視点が、これまでの商売の延長上にあるように思われました。

加賀100万石・観光地金沢のポテンシャルは大きいものがあります。これをどう生かし切れるかにかかっているようです。大いに期待したいです。

千葉県における商工振興も、それぞれの街のポテンシャル、マグネットを何にするかの検討が必要と思われました。滋賀の「黒壁」が街づくりをしていく過程＝行政組織に頼らず自づから商工の内容をも検討し創っていく姿勢を参考にしていくべきと思われました。

